

近・現代美術に関する調査研究と資料集成 ^(シ03)

研究組織 塩谷純、橘川英規、吉田暁子、城野誠治、黒崎夏央(以上、文化財情報資料部)、三上豊、丸川雄三、田中淳、齋藤達也(以上、客員研究員)

目的 日本の近・現代美術を対象として、東京文化財研究所蔵の資料をはじめ他機関や個人が所蔵する作品及び資料の調査研究を行い、これに基づき研究交流を推進する。併せて、これまで蓄積してきた美術関係者情報の整備・発信に努め、また主に現代美術に関する資料の効率的な収集と公開体制の構築を目指す。

成果

- 黒田記念館に収蔵される黒田清輝油彩画作品149点の撮影(カラー写真、近赤外写真、蛍光写真)を行った。
- 既刊『久米桂一郎日記』中のフランス語部分の和訳を完了しウェブ上で公開、また黒田清輝・久米桂一郎間で交わされた書簡のうち12通の翻刻・解題を『美術研究』434・435号に研究資料として掲載した。
- 戦後の日本美術教育に大きな影響を及ぼした創造美育協会に関する研究会を開催、本部事務局長を務めた島崎清海の資料について中村菜貴氏による発表と討議を行った(9月24日)。
- 岸田劉生の静物画について、部内研究会で口頭発表した(2月24日)。
- 2018年に寄贈を受けた美術評論家三木多聞資料のうち、1960年代の展覧会資料を貼付したスクラップブックを整理・デジタル化し、当研究所ウェブサイトで公開した。
- 黒川公二氏(佐倉市立美術館)の協力を得て調査を実施している美術評論家鷹見明彦の資料のうち、1980年代後半から鷹見が没する2011年までの間に画廊で撮影された展覧会会場写真を納めたアルバムを整理し、そのリストを当研究所ウェブサイトで公開した。

論文

- 塩谷純、伊藤史湖、田中潤、齋藤達也：「書簡にみる黒田清輝・久米桂一郎の交流(二)」『美術研究』434 pp.71-105 21.8
- 塩谷純、伊藤史湖、田中潤、齋藤達也：「書簡にみる黒田清輝・久米桂一郎の交流(三)」『美術研究』435 pp.73-97 21.12

発表

- 吉田暁子：「岸田劉生による「手」という図像 静物画を中心に」令和3年度第8回文化財情報資料部研究会 22.2.24



黒田清輝油彩画作品の撮影